

〔資料紹介〕

「小橋勝之助日誌」(五) — 「天路歷程」

解説 — 「小橋勝之助日誌」(五) — 「天路歷程」をめぐって

はじめに

ここに紹介する「小橋勝之助日誌」は大阪市淀川区にある社会福祉法人博愛社所蔵になるものである。博愛社の創設者小橋勝之助(一八六三—一八九三)は兵庫県赤穂の出身で神戸で医学を学んだ後、東京に行き、神田キリスト教会でウイリアムズ・C・Mから洗礼を受けたクリスチャンである。該日誌は表紙に「天路歷程」と墨筆で記されているもので、一八九二(明治二五)年二月二日から同年一二月三十一日までである。サイズは縦二〇センチ、横一六センチで和綴八六丁からなっている。この日誌については、さきに「小橋勝之助日誌(二) — 『天路歷程』」(『関西学院大学社会学部紀要』第一〇五号)、「小橋勝之助日誌(三) — 『天路歷程』」(『Human Welfare』第一巻第一号)、「小橋勝之助日誌(四) — 『天路歷程』」(『Human Welfare』第二巻第一号)として、三回にわたって紹介してきた。今回は前回の続きを翻刻するものである。小橋勝之助やこの日誌の背景等については「小橋勝之助日誌(二) — 『天路歷程』」等の稿を参看していただきたい。ただ、今回の日誌は、彼の召天が翌年三月一二日であり、以降の日誌がないために、最後に認められた記録である。すなわち天に召される約三ヶ

月前の記録であることから、いわば彼の遺言ともとれるものである。

室田保夫^{*1}・鎌谷かおる^{*2}・片岡優子^{*3}

一、帰郷

さて、今回紹介する日誌は一八九二年六月四日から九月一七日までの約三ヶ月半にも及ぶ北海道視察旅行から久しぶりに生家に到着した日の翌日、すなわち九月一八日から始まる。前日の日誌には「午前四時起褥喫飯人力車を雇ひ名古屋停車場に行き五時四十六分発の汽車に乗り込み午後五時過ぎ那波駅に着す其より人力車を雇ふて鶴亀村に行き木村氏宅に荷物を預け歩行して西後明村坂下に至りしに疲労して進む能はず即ち人を雇ふて博愛社に報ず直ちに籠を以て迎ひに来らる十時頃博愛社に着す十二時頃迄談話せり無事博愛社に帰りし事を主に感謝すアーメン」とあり、相当な疲労困憊の状況下においての帰郷であった。とりわけ病気を患おしての大旅行であったから、その間の体力の消耗は容易に推察できる。

しかし翌日には「午前五時起褥午前九時迄談話し九時よりの安息日学校にて是度旅行中受けし神の恵みを語りし午后は休眠又聖書の講義をなし夜は心身を鍛練修行する事を話せり今日沢田守二兄へ端書を認め差出せり」とあり、早くも活動を開始しているのには驚くべき精神力と言わざるを得ない。さらにその翌日には東京の知人に書翰を認め、

岡山孤児院にも端書を出し、会議を開き、博愛社の経済的独立を考えられている。そして二二日には前田英哲、二三日には沢田寸二と博愛社の将来につき、そして役員会にて北海道の件に付き報告している。

二、日誌の内容

今回の日誌を紐解いてみても、小橋は病魔と闘いながら、日々の業務と祈りを気丈夫にこなしていき、そして将来の博愛社のことを気にしながら活動していることが読み取れる。しかしそうした中にも、この日誌では端々に病気との闘いが痛々しく読み取れるのである。

例えば九月二七日には「午后に至りて身体大に疲れを感じ直に就褥せり」とあり、日常生活に於て疲労感や体調が優れない日が往々にあることが窺える。病気は一進一退しているようであるが、一月一日に至ると「午后は胃拡張を引起し食物胃部に停滞してトゴトゴと云ふ事を発見せり又喀痰咳嗽の如きも胃に大関係ある事を悟れり即ち按腹して停^(マ)停物を下げ降ろせり大に気分宜ろしかりし尿意頻数脈搏亢進も歩行困難も呼吸促進も胃拡張に大関係ある事を悟れり」、夜の祈祷会において「一同余の病気の快癒する為に祈られたり」とあるように、大分、病状が悪化しているようである。気分や体調の良い日もあるが、同月二十三日には「今日は身体容体甚だ苦しかりし故に炬燵を開けて之に臥すに至れり食物も今日より改良せり遠志煎を飲み始めむ今日より全くの病人として取扱はるゝに至れり」とある。

そして十二月一日に「会陰部の膿瘍を切開せし多くの膿出でたり」と認められ、一二月二日まで、毎日欠かさず続けていた日誌の記述を一旦休み、三日から二四日までまとめて書いている。そして最後も二六日から三一日までもまとめて記されている。「此間八本年中ノ博愛社ノ事業ノ成績ヲ取り調ブル為メ又書翰ヲ認メテ兄弟姉妹ニ送ル、

タメ大ニ心ヲ勞セリ之レガ為メニ病氣重ク大ニ苦メリ願クハ来ル明治廿六年一月一日ヨリ精神ノ修養ト肉体ノ療養トニ専ラ力ヲ尽サシメ玉ハンコトヲ祈ル主ヨ此僕ヲ憐ミ助ケ玉ヘ アーメン」これが日誌の絶筆である。自ら「病氣重ク大ニ苦メリ」と、あるいは「主ヨ此僕ヲ憐ミ助ケ玉ヘ」とも記しているように、死への自覚ともとれるべき心情を吐露している。

三、小橋の召天をめぐる

このような病気の中で彼は三月一二日に天に召されていくのであるが、ここで彼の召天までのことを当時合併関係にあった岡山孤児院の創設者石井十次の日誌から見えておきたい。例えば石井十次の日誌においては、三月七日の段に「博愛社小橋君見舞行を決心す」そして「所感」として「之れ主の御導きにして若し靈の御助けなかりせば余は感情的執念のため此の決心をなす事は得ざるなり」と記す。そして翌日の日誌には「一番列車にて高橋君と播州博愛社小橋君を其の病床に見舞」とあり、「余は今日主の与え給ひし一科程を卒業せり 主は定めて喜び玉ひしならむ 余は己れに主の旨に遵ひしことの由つて衷心の満足を得たり」と吹っ切れた心情を「所感」として記している。そして九日の「祈祷」には「あなたは私を憫れみ導きて昨日兄弟の病を訪はしめ玉ひしことを難在感謝いたします」と認めている。小橋の亡くなった日、そしてその後において小橋のことは日誌には記されていない。ちなみに、合併については軋轢が生じていたわけだが、三月二八日の日誌には「余は本年より農業的男児の日向移住を實行し混雜問題を解釈し去らんと思へり」とある。五月一九日には高橋が博愛社へ孤児を迎えにいったこと、そして翌日の日誌には「播州より十三名の男児高橋君に伴はれて帰る於是久しく面倒なりし博愛社との関係明白に

断絶せり」と記すように、博愛社と岡山孤児院は再度、別の道を行くことになる。

*1 関西学院大学人間福祉学部教授

*2 関西学院大学文学部非常勤講師

*3 関西学院大学社会学部非常勤講師

〔凡例〕

- ・原則として常用漢字を用い、固有名詞・地名は原文の文字をそのまま引用した。
- ・史料上の句読点は、原本の日誌の記述をそのまま引用した。
- ・判読不能な文字は、□で示した。また、文字数が判明できない場合は「」で示した。

・原本中で、文字に疑問は無いが意味の通じ難いものについては(ママ)を附し、疑問の残る場合は(カ)を附して傍注した。

※この研究は、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号

22530654 研究課題「大阪『博愛社』の歴史的研究」の成果の一部である。

※本稿の解説は室田、解説は室田、鎌谷、片岡が行なった。

十八日(日曜) 午前五時起床午前九時迄談話し九時よりの安息日学校

にて是度旅行中受けし神の恵みを語りし午后は休眠又聖書の講義をなし夜は心身を鍛練修行する事を話せり今日沢田寸二兄へ

端書を認め差出せり

十九日(月曜) 午前六時起床聖書祈祷飯東京巖本善次、藤井河合両氏、

小沢きく姉、大須賀亮一氏、震災孤児院、北海孤児院、前田英哲氏への端書を認め差出せり又岡山孤児院へも通知せり田畑水害の模様を巡視せり午后は会議を開き博愛社の経済を独立せしむる為に明日より一層奮励する事に決せり夜は人世の五幸福に就き談話せり又生徒一同に経済独立に付き明日一層奮励し呉る、様申渡したり一同喜んで承知せり

二十日(火曜) 午前七時起床聖書祈祷水守達也君来訪せられ漫遊中の所感を話し且つ水守勇也君の独立を話せり又西尾雅胤君に将来の事を話せり小橋正二君にも将来の事を話せり小橋礼太郎君に勉学上の事を話せり夜は生徒に授業をなせり身体に別(ママ)に違常なし夜小橋正二君今日迄の考へは誤まりにして尚二三年間博愛社に在りて実業上の鍛練を得んと決心を申出でたり

二十一日(水曜) 午前七時起床聖書祈祷前田英哲兄来られ午后五時頃追信仰上及び職業上及び博愛社将来の事に付き話せり夜は授業又役員等に人物の階級博愛社前途の計画等を話せり

二十二日(木曜) 午前七時起床聖書祈祷書翰認め又書見をなせり午后は或は書見をなし或は休めり夜は沢田寸二氏と談話せり又集りに於て紋龜開墾の模様を話せり

二十三日(金曜) 午前五時起床朝の集りに列し聖書祈祷其れより沢田寸二兄と博愛社将来の方針に付き談話し又会計上の事を相談せり沢田氏之を引受くる事を諾せらるる午后は暫時休眠沢田氏

歸られたり夜は夜学授業且つ金曜祈祷会を開き愛国独立心を涵養すべき事を勧めたり又役員会にて北海の地理につき話せり○昨夜は尿意頻りにして三度起きたり是れ氣候冷気を催せしによるならん食気は大に亢進せり

二十四日(土曜) 午前六時起床喫飯聖書祈祷午前は事務を取り又書見せり午后は身体何となくものうく休眠せり夜は生徒に授業役員会にて北海に対するクリスチアンの策に付き話せり今夜は小橋實之助氏より会計事務を引受けたり今日は南木八郎氏来談せらる即ち心を誠にし身を修め家を齋ひ子女を教育するの必要を話せり

二十五日(日曜日) 午前六時起床喫飯聖書祈禱たり安息日学校に於て北海道物産を話せり午后は役員の集りに於て聖書を講義せり夜は西尾雅胤君を送る為に青年の十誠を話せり今夜の集りは尤も有益なりし^(ママ)尔来午前中は事務を取り書見をなし午后は運動及実業を働き夜は二時間の教授と一時間の談話をなす可し死に至るまで之を務めて止むる勿れ

二十六日(月曜) 午前六時起床喫飯聖書祈禱を認め其他事務を取り又聖書祈禱午后は休眠女学雑誌を読み夜は生徒に授業又役員等に堅き信仰の基礎を築く事を勧めたり

二十七日(火曜) 午前六時起床喫飯聖書祈禱及事務を取り書見をなしたり午后に至りて身体大に疲れを感じ直に就寝せり余は何故にかく食欲に克つ能はざるか婦社してより既に十日を経過し其間に於て菓子^(ママ)の過食果実の過食蠶豆の食三度の食事の過食等其誤り勝げて数ふ可らず是れ今日の結果なりし所以なり主よ願くは余の口^(ママ)に守りを置き賜へ如何なる事ありても一日三度の食事の外決して間食すべからず滋養品を取るにも三度の食事の時に於てすべし余の是世を去るとき近かつけり決して油断すべからず

二十八日(水曜) 午前六時起床喫飯聖書祈禱及事務を取り又書見をなし書翰を認めたり午后は散歩をなし又書見せり夜は二時間の授業をなし又自己の撰生法につき役員に図れり十分に撰生を加ふる事に定まれり又信仰上の談話及び学問をなすの注意等を話せり

二十九日(木曜) 午前六時起床喫飯聖書祈禱及事務を取り書翰を認めたり午后は岡山孤児院より高橋竹千代君来訪せられ三人の孤児を連れ来らる皆病人なり同君と此度の旅行中の感じを話せり夜は二時間程教授をなし又高橋君に石井愛兄への忠告を話せり主の御恵み遠からず岡山孤児院に降る事を感じたり十二時寝に就く

三十日(金曜日) 午前七時起床喫飯聖書祈禱及事務を取り書見をなし午后は昨夜の疲労の為に休眠せり夜は授業をなし又役員会を開けり今日晩景に馬に乗り中野村迫行き水害の模様を観察せり川は一般に浅くなり通路荒悪となり田地に沙石流れ込み其惨状実に甚し爾来年々早魃水害並び来りて人民を悩まさん是予防策は如何篤と研究を要す可きなり

十月一日(土曜) 午前六時半起床喫飯聖書祈禱事務を取り書見をなし午后は休眠又馬上にて運動をなし夜は会議后勧めをなせり又役員等に凡ての事良心に従ひてなし又人の良心を傷けず其徳を建てる様に行ふべき事を勧めたり其他事務上の協議をなせり今日より注射液の注射を始めた^(ママ)り又肝油を飲み始めた^(ママ)り一度に少し多く飲みし^(ママ)為下痢したり

二日(日曜) 午前七時起床喫飯午前安息日学校に於て勧めをなしたり今日はアブラハムリンコンの伝を読み大に益を得たり農業的教育によりて彼の如き人物を養成する事余の希望して止まざる所なり午后は聖書講義をなせし夜は感話会に於てリンコンの

人物につき勧めをなせし

三日(月曜)午前七時起褥喫飯前月中の計算をなし其他事務を取りたり午后は馬に乗りて暫らく運動し来客と談話し夜は授業をなし又役員等の精神上の談話をなせり

四日(火曜)午前七時起褥喫飯聖書祈禱事務を取り書翰を認め午后は田を觀に行きし又書見をなし夜は授業及び精神上の談話をなせし

五日(水曜)午前七時起褥喫飯聖書祈禱事務を取り午后は休眠(此頃は如何なる訳にか尿意頻数にして夜三四度起臥す其れが為に疲労を感じず)夜は授業且つ勉強十一時褥に就く

六日(木曜)午前七時起褥喫飯聖書祈禱事務を取り午后は書見をなし休み居りし処露無文治君来訪せられ旅行中の所感を話し又信仰上の談話をなし孤兒院将来の事を話し又泰西の慈善事業を参考する為に其れに関する書類の翻訳を依頼せり夜も信仰上の談話をなし十時褥に就く

七日(金曜)午前七時起褥喫飯聖書祈禱事務を取り書見をなし午后は徒然にして送り夜は授業及び役員と事務上の共議をなせり

八日(土曜)午前七時起褥喫飯聖書祈禱事務を取り午后は疲労の余体眠夜は授業本日は肉体の病氣も別に変はりなし本日より祛痰剤として遠志浸を飲み始めむ「又本日より今日なす可き事を明日迄猶予する勿れの真理を実行する事を決心せり」

九日(月曜)午前七時起褥喫飯安息日学校に於て勧めをなし又文庫の書籍を整頓し一室を掃除し又午后は聖書の講義病人看病の共議夜は感話会に於て勧めをなし又庖厨整頓の共議をなせり余の身体大に疲労を感じ明日より庖厨上養鶏上衛生上に一層注意するべし

十日(月曜)午前七時起褥喫飯聖書祈禱事務を取り午后は衛生上の事

務を取り且つ疲労の余り休眠夜は種々相談をなしたり又一日の事務を取片付けし今日身体の容体は別に変はりし事なし少しく咳嗽喀痰ありし滋養剤と身体の運動を怠りし

十一日(火曜)午前七時起褥喫飯聖書祈禱事務を取り午后は赤痢予防の為に来られし役場吏員と談話し教育上の事を談じ夜は教授及庖厨上の事及実業上の事を相談せり今日は身体別に異状なし遠志浸の為に祛痰をよくす又肝油も少しく飲みし願くは死に至るまで必死を尽して教育の為に働き得ん事をアーメン

十二日(水曜)午前五時起褥朝の集りの講義をなし聖書祈禱喫飯午前中は書見をなせり午后は休眠夜は授業をなせり今日身体の模様は大に宜ろし肝油も三度飲み滋養食もなし服薬もなせり但運動はなさざりし

十三日(木曜)午前五時起褥朝の講義をなし聖書祈禱喫飯午前中は疲労の為に休眠午后は勉強夜は授業今日身体の容体少しく悪なりし是れ全く胃部を損ぜしによるならん又運動もせざりし今晚より香竄葡萄二十瓦に肝油少し混じて飲み始めむ

十四日(金曜)午前五時起褥朝の講義をなし聖書祈禱喫飯午前中は書見をなし事務を取り家政を監督し午后は暫時休眠馬上にて少しく運動し夜は小橋礼太郎君に暗記の問答をなし又事務を取り十一時褥に就く○今日身体の容体は甚だ悪し、なんとなく身体に苦しみをもち咳嗽喀痰も多くありし是れ全く葡萄酒肝油を飲みし故ならん酢及びアマザケも少々は害となりしならん慎しむ可し

十五日(土曜)午前七時起褥喫飯聖書祈禱午前中は事務を取り又包厨の監督をなせし午后は書見夜は禮君に問答をなし○今日身体の容体は昨日より宜しくなりし

十六日(日曜)午前七時起褥喫飯午後九時より安息学校を開き人ハバ

ンのみにて生きるものに非らず唯神の口より出づる凡ての言によると云ふ事に付き勧めをなせり午后は気分悪しく喀痰咳嗽甚しきにより休眠夜は集りに出で又談話せり今日は身体大に苦しかりし随て言語大に乱れし

十七日(月曜) 午前八時起床喫飯聖書祈祷午前中は半病人にて事務を取りたり午后は来翰及雑誌を読み夜は博愛社に關係ある人々の記念会を開けり(又米甘汁)を以て親睦をなせり

十八日(火曜) 今日七時起床喫飯午前には集りを開き午后は来客に接し大ニ繁雜を極めたり夜は早くより就寢

十九日(水曜) 今日午前七時起床喫飯少しく休息十時頃より午後へかけて休眠せり夜は事務を取り小橋礼太郎氏の問答をなしたり今日は身体の模様悪し、

二十日(木曜) 今日午前七時起床喫飯聖書祈祷事務を取り午后は事務を取れり夜は小橋礼太郎氏の問答をなせり今日身体の容体は大に悪し、

二十一日(金曜) 今日午前七時起床喫飯聖書祈祷事務を取り午后は病人療養の事に付き考へ夜は集りに於て長寿の心得食事の心得を話せり又小橋礼君^(マツ)の問答をなし午後十時禱に就く今日は身体の容体少しく宜しかりし

二十二日(土曜) 午前七時起床喫飯事務を取り聖書祈祷身体は益々力ら付き午后は馬上にて運動せり其れが為に大に疲労し晩迄休眠せり夜は集りを開き教訓せり又小橋礼太郎君の解剖生理ノ問題に問答せし十時禱に就く

○撰生法

食事 一度二粥又ハ米飯二碗鶏卵一個野菜物一椀漬物一皿コンデンスミルク又ハ鶏卵クズ一椀

薬用 祛痰剤 遠志浸 吸入薬 テレピン油 健胃剤 稀塩酸龍膽丁

幾 注射薬 結列阿曹篤を阿列布油ニ溶カセシモノ
新鮮空気呼吸 一日数回
身体運動 毎日午後一時間乃至三時間

精神撰養 毎朝祈祷及聖書 (道德、衛生、経済ノ研究)

博愛社の事務 午前九時より午前十一時迄 二時間
教育 午後七時ヨリ同十時迄三時間

二十三日(日曜) 午前七時起床喫飯其れより準備をなし午前安息日学校に於て信仰、希望、愛、誠実、健康、労働、熱心、勉強、忍耐、節儉、貯蓄、利用等の徳を涵養すべき事を勧めたり午后の集りに聖書の講義日本経済上の世界恐慌^(マツ)経済と道德の一致等につき談話し殊に青年悪魔の誘惑に負け易き事を話せり夜は感話会の司会をなせり今日身体の容体大に宜し

二十四日(月曜) 午前七時起床喫飯聖書祈祷午前中は事務を取り午后は書見をなし且事務を取り夜は書見をなし且つ小橋礼太郎君の化学問答をなし又大須賀亮一兄より恵享の威氏経済学到着せり一見するに実に有益の書なり今日は身体大に宜ろし

二十五日(火曜) 午前七時起床喫飯聖書祈祷其より書見をなし事務を取り午后は竹内松之子ノ母来訪せられ談話せり夜は集りに於て勧めをなし又小橋礼君の解剖問答をなし九時禱に就く

二十六日(水曜) 午前七時起床喫飯聖書祈祷其より書見をなし事務を取り午后も亦同様に書見をなし事務を取り夜は集りに出で又小橋礼太郎君科学の問答をなせし身体の容体は別に変はりなし

二十七日(木曜) 午前七時起床喫飯聖書祈祷書見をなし午后は事務を取り夜は集りに於て道德衛生、経済の關係を話せり之を自転三輪車に譬へて話せり身体の容体別に変はりし事なし又小橋礼太郎君に解剖問答をなせし又凡ての事良心によつて判断し確信せし事を実行すべき事を話せり然らざる時は精神上二大なる弊害

の生ずる事あり

二十八日(金曜) 午前七時起褥喫飯、聖書祈禱書見をなし午后は事務を取り夜は集りに於て衛生上の談話をなし又事務を取りたり余は身体病気の為に精神鋭敏になりし事に感動し易く言語乱れ思ふ様に身体自由ならざる為に人を使役する事多く実に生徒等に悪感化を与ふる事莫大ならん願くは主よ是誤まりより救ひ給へアメン

二十九日(土曜) 午前七時起褥喫飯聖書祈禱研究をなし午后は病人の薬を調査したり夜は集りに出で、報告を開き又事務を取り十一時褥に就く是頃身体の容体は脉搏亢進「尿通頻数」「朝昼晩大抵食後及び就褥后咳嗽喀痰」「呼吸促進」「歩行困難」等なり

三十日(日曜) 午前八時起褥喫飯安息日学校に於て猶太国の滅亡印度の滅亡を話し日本帝国の運命につき警戒すべき事を話せり午后は事務を取り夜は何となく気分悪しく耐へ難くありし早くより褥に就く

三十一日(月曜) 午前七時起褥喫飯聖書祈禱午前中は経済上の事務を取り又午后も経済上の事務を取り夜は姫路教会への書翰岡山孤児院への報告書を認め其他一ヶ月間の事務を整頓せし又夜の集りに於て一ヶ月間経済上の報告をなせし今日身体の容体は別に変わりし事なく只咳嗽喀痰甚しくありし

明治廿五年十一月一日(火曜) 午前六時起褥聖書祈禱書見をなし事務を執り午后は病人の薬を拵へ夜は一回の報告をなし実務上の心得を話したり今日身体大ニ苦痛なりし咳嗽喀痰甚しく気分不快なりし

二日(水曜) 午前七時起褥喫飯聖書祈禱書見事務を執り午后は休眠夜は書見報告会に臨みたり○今日は身体の容体甚だ悪し、

三日(木曜) 午前七時起褥喫飯聖書祈禱書見事務を取り午后は精神及

身体を休め夜は天長節祝会に於て日本古今の变革を話せり今日は身体の容体甚だ悪し、

四日(金曜) 昨夜咳嗽喀痰甚しくして安眠する能はず午前八時起褥喫飯聖書祈禱事務をとり書見をなし午后は休眠し又入浴し夜は集会に出で報告を聞き褥に就く

五日(土曜) 昨夜咳嗽喀痰甚しく安眠する能はず午前八時起褥喫飯聖書祈禱衛生事務をとり書見し午后は休眠夜は報告会に臨み又書見せり

六日(日曜) 午前八時起褥喫飯安息日学校に於て勧めをなし又朝鮮の運命につき話せり午后は休眠夜は書見及び事務を取り十時褥に就く

七日(月曜) 午前八時起褥喫飯聖書祈禱午前中は書見をなし事務を取り午后は休眠夜は報告会に臨みたり

八日(火曜) 午前八時起褥喫飯聖書祈禱午前中は書見をなし事務を取り午后は休眠夜は報告会に臨みたり

九日(水曜) 午前八時起褥喫飯聖書祈禱午前中は書見をなし事務を取り午后は薬局を整理し夜は報告会に臨みたり

十日(木曜) 午前八時起褥喫飯聖書祈禱聖書見及び衛生上の事務を取り又水守勇也君来られ即ち学問をなす及三段の順序ある事を語り午後には休眠夜は報告会に臨み十時褥に就く○昨日来節食をなすにより身体大に宜ろし

十一日(金曜) 午前六時起褥喫飯聖書祈禱聖書見衛生上の事務を執り午后は寒気甚しく身体不和を感じし為休眠せり夜は報告会に臨めり十時褥に就く

十二日(土曜) 午前八時起褥喫飯聖書祈禱午前中は衛生上の事務を取り午後には休息夜は報告会に臨めり今日身体の容体は中等なりし

十三日(日曜) 午前七時起褥安息日学校の準備をなし九時より安息日

学校を開き聖書に付き話し又安南、暹羅、緬甸等の地理につき話せり午後は書見夜は早くより褥に就く

余は身体の撰養と精神の修養と事務の執行の三つは毎日是非共なさざる可らず然るに今日迄規則正しく行かざるは遺憾の事なり願くは主よ是の病弱の身心に力を与へ聖旨をなさしめ玉へアーム

道徳	聖書 兩自助論	日
衛生	解剖、生理 病理、衛生	月
衛生	衛生	火
衛生	衛生	水
衛生	衛生	木
衛生	衛生	金
衛生	衛生	土
経済	地理、歴史 農業、経済	経済
経済	経済	経済
経済	経済	経済
経済	経済	経済
事務	安息日学校	

十四日（月曜）今日は午前八時起床聖書祈祷喫飯身体療養書見事務を取り午後は身体に寒さを感じる為に休眠せり夜は報告会に臨みたり喀痰咳嗽は少しく減ぜし今日入浴はなごりし身体疲勞呼吸促進歩行困難脈搏亢進等は増進せし

十五日（火曜）午前七時起床喫飯聖書祈祷午前中は身体療養書見事務を執行せり午後は寒さを感じる為に休眠せり夜は報告会に臨みたり身体の容体は昨日に同じ

十六日（水曜）午前七時起床喫飯身体療養書見事務を取り午後は書翰を読み新聞を読み又運動せり夜は報告会に臨めり身体は少しく宜ろし

十七日（木曜）午前七時起床喫飯聖書祈祷身体療養事務を取り午后も

亦然り夜は報告会に臨めり

十八日（金曜）今日午前七時起床喫飯祈祷事務を取り書翰を認めたり

午後は胃拡張を引起し食物胃部に停滞してトゴトゴと云ふ事を見せり又喀痰咳嗽の如きも胃に大関係ある事を悟れり即ち按腹して停停物を下げ降ろせり大に気分宜ろしかりし尿意頻數脈搏亢進も歩行困難も呼吸促進も胃拡張に大関係ある事を悟れり尔来胃の治療を専らにすべし夜は報告会に臨めり今夜小橋実之助氏に按摩を依頼せり大に快くありし

（※ここに人体図が描かれているが、省略した）

今晚の金曜の祈祷会にて一同余の病気の快癒する為に祈られたり「それ信仰より出る祈祷は病気を救ふ可し主之を起さん若罪を犯し、こと有らば赦さん〇なんぢら互ひに過ちを認らはし且病を癒さる、こと得ん為に互ひに祈るべし義者の篤き祈祷は力あるものなり（雅各書五ノ十五、十六）

十九日（土曜）午前八時起床喫飯祈祷少しく事務を取りたり午後は多く休眠せり夜は報告会に臨む能はず胃部ノ減食療法を施す大に疲勞す又今晚は廣瀬正作子に按摩をして貰ひし大に快く感ぜし夜は安眠をなすを得たり菓子食嚴禁間食嚴禁飽食嚴禁、喫茶嚴禁、多言嚴禁以上の五個ノ嚴禁を堅くも守るべし

二十日（日曜）今日は朝より晩に至るまで病床にありし又廣瀬正作子に按摩をして貰ひし大に快くありし按摩は病者にとりては此上もなき慰みと快樂を感じるものなり今日始めて之を悟れり身体健康ならざる時は何事もなす事能はず故に先づ暫らく萬事を擲ち身体の撰養を専らにすべし書籍上の研究は当分之内一切之を廃すべし

二十一日（月曜）今日は早朝より起床喫飯大に気分宜しく又運動をなし書翰を認め午後は新鮮空気呼吸及少しく事務を取り又久しぶ

りにて入浴し夜は少しく談話し九時禱に就く今日は大に気分宜しかりし

二十二日(火曜)午前七時起床喫飯大に気分宜しく午前少しく事務を取りし又新鮮空気呼吸せし午后は静かに休息夜は早くより就褥今夜は村尾姉の精神につき協議せり又今夜余の病氣再び癒するか主の御許に行くかは来る明治廿六年中に定まるとの感じ起りたり又博愛社の事業も孤児実業的教育の一事を熱心に勉むる是れ成功の秘訣なりとの感類なり

二十三日(水曜)今日は身体容体甚だ苦しかりし故に炬燵を開けて之に臥すに至れり食物も今日より改良せり遠志煎を飲み始めむ今日より全くの病人として取扱はるゝに至れり

二十四日(木曜)今日も朝より晩に至るまで病床にありて神の恵みを味ひ又人を教育すると云ふ事を大に味ひたり世に多くのなす可き事あるもキリストにありて人を教育するの楽しみに及ぶものなるべし

二十五日(金曜)今日は神戸より松田治郎吉兄来られ種々談話せり今日少しく談話過ぎたり余の守るべきものは精神の安慰身体の安静新鮮空気呼吸湯薬用、滋養食適宜の身体運動等なり

二十六日(土曜)今日は朝より晩に至るまで静かに撰養せし会陰部の腫物益々痛みを尽したり又大便通じて大に快くありし

二十七日(日曜)今日は朝より晩に至るまで静かに療養せし会陰部の痛みを大に苦しむ衰弱も之が為に益々進む心地す

去年今日在大垣今在病床雜感切人間行路多艱苦独慰天父愛我切幾犯罪悔悟類基督救我与安慰天路將尽我前途天使護我到天城

二十八日(月曜)今日は朝より晩に至るまで精神の修養と肉体の療養と事務の指揮をなしたり会陰部の痛み依然たり

二十九日(火曜)今日は朝より晩に至るまで精神の修養と肉体の療養

と事務の指揮をなしたり病氣は依然たり

三十日(水曜)今日も朝より晩に至るまで精神の修養と肉体の療養と事務の指揮をなしたり病氣は依然たり今夜は一ヶ月中の会計を整理する為に夜遅くまで精神を使用せり

十二月一日(木曜)今日は会陰部の膿瘍を切開せし多くの膿出でたり精神の修養と肉体の療養と事務上の指揮をなしたり

二日(金曜)今日は精神の修養と肉体の療養と事務の指揮をなせり又今日数年来の負債弁償の機会を与へられ実に感謝せり

三日ヨリ廿四日迄ノ三週間

是ノ間会陰部ノ疼痛咽頭ノ加答兒胃ノ不消化肺ノ呼吸促進心臓ノ心悸亢進等ニテ甚ダ悩メリ然ルニ摂生をなし治療を加へしニ会陰部ハ殆んど全快又廿三日ニ人工カル、ス泉塩を服用せしに胃部を一洗し大に気分宜し之が為に咽頭加答兒も呼吸促進心悸亢進も大に減退す胃と咽頭と肺と心臓と親密なる關係を有するものなる事を悟れり余は種々なる病氣を一身に有すれども尤も長く又尤も損じおるは胃なり今月迄胃病の療治を怠りしは是れ大なる誤りなり胃病を第一に治療せば其他の病氣も従つて軽快する事は今日迄の経験にて明かなり豈に励まざる可けん哉

廿五日(月曜日)本日は基督ノ御降誕日ニシテ我等一同喜ビヲ以テ此日ヲ祝セリ殊ニ此日ハ余ガ主ノ召ニ蒙リシ最トモ紀念スベキ日ナルガ故に懐旧ノ念頻リニ起リ萬感胸中ニ浮ビ来リテ大ニ病苦ヲナグサメタリ願クハ主ノ恵ミ此賤シキ僕ノ上ニ加ハリ肉体ノ病氣モ次第二快方ニ赴キ主ノ御用ヲ務ムルニ至ランコトヲア
ーメン

廿六日ヨリ卅一日ニ至ル迄

此間ハ本年中ノ博愛社ノ事業ノ成績ヲ取り調ブル為メ又書翰ヲ認メテ兄弟姉妹ニ送ル、タメ大ニ心ヲ勞セリ之レガ為メニ病氣重

ク大ニ苦メリ願クハ来ル明治廿六年一月一日ヨリ精神ノ修養ト
肉体ノ療養トニ専ラ力ヲ尽サシメ玉ハンコトヲ祈ル主ヨ此僕ヲ
憐ミ助ケ玉ヘ アーメン